

「内藤ルネ展」のためのデザイン再現（第3報）

—ドレス4着の再現製作について—

高橋 知子、内田 裕子、山田 裕子

The Reproduction of Rune's Design for "The Exhibition of Rune Naito"(3)

- Making Process of the Four Dresses -

Tomoko Takahashi, Yuko Uchida, Hiroko Yamada

キーワード: デザイン再現 reproduction of design 、内藤ルネ Rune Naito、
製作過程 process of dress making 、手芸 handicrafts

1. はじめに

愛知県岡崎市出身のイラストレーター、画家、インテリアデザイナーである内藤ルネを取り上げた展覧会「内藤ルネ展—“ロマンティック”よ、永遠に」が2007年から2010年にかけて、静岡市、京都市、刈谷市、出雲市、東京都、四日市市において順次開催されている。展覧会の開催にあたり、著者らは、朝日新聞社事業本部名古屋企画事業チームと刈谷市美術館からの依頼により、内藤ルネのデザインしたドレス、人形、ぬいぐるみ、帽子、バッグなどを再現製作した。この製作過程については、第1報^{注1}、第2報^{注2}として、すでに報告されている。

本稿では、第2報までで報告されていない再現ドレス4着（1959年から1968年に初めて発表された作品）について、製作過程を記録した。4着の再現製作者は内田裕子、山田裕子および本学家政学部家政学専攻4年生2名（山本雅保、川島理恵）で、それぞれ担当作品中に記載した。

ドレスの再現製作は、パターン製作、トワルによる仮縫い・試着・補正、材料の選定、縫製、美術館学芸員によるチェックと修正・縫い直し、完成の順に行った。展示用ボディの原型等の詳細は第1報に記述したので、ここでは省略する。

さらに、1950年代から1960年代にかけてルネのデザインに多く登場する手芸的要素につい

て紹介し、当時の生活における手芸の位置づけについても考えていく。

2. 再現ドレスの概要と製作方法

（1）アップリケ付きサーキュラースカート

1) 掲載記事について

再現作品は、1959年刊『こんにちは！マドモアゼル』に掲載された「おしゃれパターン ラヴリー・セヴン」^{注3}のサーキュラースカートである。（写真1）記事では、ちょっとした思いつきでできる楽しいおしゃれとして、スカートに愛らしい形のフェルトを7つ、アップリケする提案がされた。記事はモノクロであるが、再現ではルネからアップリケ7色についての指定があった。

2) 材料

スカート本体＝黒フェルト（毛100%）

アップリケ＝赤・青・緑・黄緑・黄・オレンジ・ピンクのフェルト（毛60%、ポリエステル40%）

付属品＝コンシールファスナー、かぎホック
サッシュベルト＝サテン（ポリエステル100%）、スナップ



写真1 『こんにちはマドモアゼル』掲載の記事



写真2 再現したサーキュラースカート

3) パターン

サーキュラースカートであるので、前後2枚の半円形とした。仮縫い後、ボディ形状に合わせてウエストラインの位置を補正した。パターン形状については、省略する。

4) 製作上の注意点 (縫製: 山本雅保)

このスカートのポイントはアップリケであるので、学生はアップリケをブランケットステッチで正確に縫いつけることに集中して製作した。(写真2)

(2) ベロアのドレス

1) 掲載記事について

『女学生の友』は1950年創刊の女子高校生向け雑誌である。ルネはこの雑誌に付録として付けていた『ジュニアスタイルブック』の目次ページの挿絵を描いている。再現した作品は1968

年1月号目次頁^{注4}に描かれた女性のドレスである。新春にふさわしい黒のドレスはミニ丈で、別衿とカフスにはたっぷりレースが用いられ、胸元のブローチや袖口のリボンとともに、改まった雰囲気を出している。(写真3)

ルネはこのドレスがお気に入り、2006年にRUNE PLANからレーススベアカラー付プリンセスワンピースとして発売されている。今回の再現においては、ルネによって写真に修整が加えられた。袖は袖山付近にボリュームを持たせ、モデルの髪型にも手書きで修正を加えて、おしゃれな少女を演出した。(写真4)



写真3 『女学生の友ジュニアスタイルブック』



写真4 RENE PULAN 発売のワンピース

2) 材料

①ドレス

ベロア(ポリエステル 100%)

袖口用の薔薇模様ケミカルレース(綿 100%)
サテンテープ、コンシールファスナー55cm、
ホック、接着芯

②飾り襟

薔薇模様のケミカルレース（綿100%）
土台布はオーガンジー（ポリエステル100%）
スナップ

3) パターン

ボディ原型をもとにパターン展開、仮縫い・補正を経て、図1に示すパターンとした。ウエストは全体の形が崩れない範囲で、できるだけ細くした。袖はレグオブマトンスリーブで、袖山付近を膨らませたデザインにするため、上腕部に切り替え線を入れ、袖山部分にギャザーを入れた。

4) 製作上の注意点（縫製：川島理恵）

縫製の際にパッカリングができにくいペロアを選定した。この布地は自重により伸長することが予測されたため、縫製後ボディに装着させて十分に伸ばし、裾上げは展示直前に行った。また、ルネの要望である細いウエストを実現するためフィッティングを繰り返し、裁断時よりもウエスト寸法をさらに絞って、縫製し直した。

飾り襟（写真5）はドレスのポイントであるため、薔薇模様のケミカルレースを飾って豪華に仕立てた。襟の土台布として白オーガンジーを円形に縫い合わせ、この上にケミカルレースを、タックを取りながら二重に留め付けた。タックは同じ模様となるように注意してたたんだ。スタンドカラーの部分は土台布なしで、ケミカルレースをたたみ、留め付けた。レースの作業はすべて手縫いで行った。さらに、レースのタック部分が展示の際に広がってしまうことを防ぐために、テグスでスタンドカラー部分を固定した。



写真5 飾り襟部分拡大



写真6 再現作品（撮影：東海写真スタジオ(株)）

（3）松島トモ子のオーバーコート

（パターン製作・縫製：山田裕子）

1) 掲載された記事について

『りぼん』1960年特大号では3人のジュニアスター（松島トモ子、浅野寿々子、渡辺政江）に合うオーバーコートをイラストで紹介している。^{注5}松島トモ子の場合、「男の子のようにハキハキした大きなひとみのトモ子ちゃんにぴったりした、黒い毛糸でザックリ編んだマント型のコート」と、説明が入っている。（写真7）



写真7 『りぼん』掲載のオーバーコート

2) 材料

①コート

毛糸 Wister Light Roving
（毛51%，アクリル49%）

ボタン、ホック、接着芯
コート裏地用布 ウール 100%

3) 土台パターンと編み図

袖なし、ポンチョ形式で羽織るコートである。原型をもとにパターンを製図し、トワルで組み立て、補正の後、土台となるパターンを決定した。土台パターンを図2に、編み方図を図3に示した。

4) 製作上の注意点

編み始めは鎖編みで作り目をし、必要目数を拾いながらメリヤス編みで編み進めた。編み地は土台パターンに沿って増減を調節して編んだ。前身頃はポケット口を開けて編み、後ろ身頃も編んで、前後を脇部分でとじた。襟は身頃の襟ぐり部分より目を拾い、1目ゴム編みとした。ポケットふたはポケット口開き部分より目を拾い1目ゴム編みをした。

編み地を安定させるために、コート全体にウールの裏地をつけた。さらに、ルネらしく、かわいらしさを出し、丸みを持たるために、裾、前立て、襟部分は編み地を折り返して留めた。このため、裏地は表の編み地より裾を10cm短く製作した。編み地はかなり重みがあり、ボディに着せつけたとき垂れ下がってしまうことが予想されたので、編み地と裏地は所々で留め合わせた。前立て部分裏側にホックをつけた。



写真8 再現作品（撮影：東海写真スタジオ(株)）

(4) ディジィのドレス

(パターン製作・縫製:内田裕子)

1) 掲載された記事について

ディジィのドレスは『服装』に掲載された「トゥイーン・ファッション」^{注6}の記事が基になっている。記事では、花束をイメージしたボレロ付きワンピースとして紹介されているが、今回（2007年）ルネは、「内藤ルネ展」のために新たにデザイン画を描き直している。以前の記事で少女が着用していたボレロは取り去られ、少女のワンピースにほどこされていた花のアップリケが進化して、デージーの花をあしらったAラインの軽やかなドレスのデザイン画が生まれた。（写真9）『服装』の記事では、「花束のムードで、トゥイーン・エイジの幼い夢を出してみた」と解説しているが、2007年では、若草色の「ディジィ」にこだわり、白くかわいらしいデージーと若草色のオーガジーで、現代に蘇った少女のイメージを表現しようとしたものと思われる。

『服装』は1957年創刊の女性誌、誌名が示すように、服装に関する記事、洋裁の解説などが入ったファッション雑誌であった。ルネのデザインは自筆のイラストで表現されることが多いが、『服装』には着装写真で登場している点も興味深い。

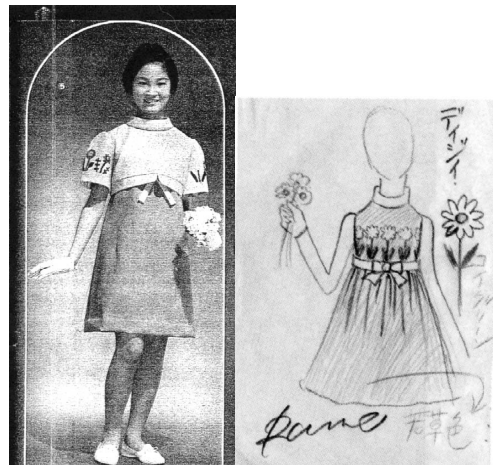


写真9 『服装』掲載の記事（左）とルネが描いたデザイン画（右）

2) 材料

①ワンピース

表地 ウエディングサテン・薄グリーン
(ポリエステル 100%)
オーガンジー・黄緑
(ポリエステル 100%)
ウエディングサテン・白
(ポリエステル 100%)
サテンリボン 白 (ポリエステル 100%)
花 造花用シルクサテン・白 (絹 100%)
造花用シルクオーガンジー・白 (絹 100%)
レース編み糸・黄 (綿 100%)
スパンゲル・パールホワイト 4mm
サテンリボン・濃緑 4mm 幅 36mm 幅
(ポリエステル 100%)

副資材 コンシールファスナー 55cm
接着芯 両面接着芯 カギホック
スナップ

②パニエ

パニエ用ナイロンシャー (ナイロン 100%)
副資材 ゴムテープ パニエ用ホック

3) パターン

『服装』に掲載された製図では、切り替え線なしのワンピース形式であったが、再現するドレスはスカートにたっぷりギャザーを入れたデザイン画に描かれたので、ハイウエストで切り替えたパターンとした。身頃にはダーツを入れず、しかも、身体にフィットさせてほしいという要望があり、切り替え線付近の形状に苦労した。パターンを図4および図5に示す。

4) 製作上の注意点

①ワンピース

デザイン画のイメージ通りに再現するために、ウエディングサテンの上にオーガンジーを重ね合わせ、艶のある色合い、軽やかさと豪華さを兼ね備えた質感、風合いを表現した。上部は、各パーツにそれぞれの素材を重ね、2枚ずつを縫合した。スカート部分はギャザースカートにするため、2枚それぞれをスカートにし、ウエストで縫合した。オーバースカートとなるオーガンジーの脇、後ろ中心の縫い代は2~3mmにカットし、ほつれ止めとして、線香



写真10 再現作品(撮影:東海写真スタジオ株)



写真11 胸元の造花部分

の熱を利用し、1mm幅にまで溶かし固めた。この方法により、表から見たとき、縫い代として目立たなくなった。裾については、パニエをはかせ、ふくらみを調節しながら、ヘムラインを決め、まつり縫いをした。サテンは伸長し易い布地であったので、ボディに長時間装着させて、伸びを促した後に、裾位置を決定した。

②装飾

胸元の造花の製作では、花びら部分には造花用シルクサテン、シルクオーガンジーを両面接着芯で張り合わせ、張りやつや感を表現した。花芯はレース編み糸を用いて、かぎ針編みで円形に形作り、その上にスパンゲルを刺繍した。葉のほつれ止めにはワンピースと同様、線香の熱を利用した。

3. 1950年代から1960年代はじめにおける 内藤ルネの手芸提案

本稿で報告した再現ドレスは1959年から1968年までに初めて発表されたものとそのデザインをルネが発展させたものである。1951年から1960年代前半、ルネは『それいゆ』、『ジュニアそれいゆ』『こんにちはマドモアゼル』で、カット、挿絵、アップリケ・人形などの手芸、ファッション提案、インテリア提案、エッセイを発表している。『服装』では、ドレス、人形、ぬいぐるみ、『りぼん』『女学生の友』では挿絵と付録を発表している。1960年代後半から、ルネは『服装』においてインテリア提案の分野へ力を入れるようになり、1972年創刊の『私の部屋』での大活躍につながっていく。つまり、1960年代前半までが、ルネのさまざまな手芸作品が発表された時期といえる。

戦後から1960年代までは、まだ既製服生産量は多くなく、人々は手持ちの衣服や布地をうまく利用して、洋服を手作りしていた。家庭用ミシンの生産台数が1950年から急激に上がり始め、1969年にピークを迎えていることからこの点がわかる。^{注7}このような家庭洋裁の時代には、ブラウスやドレスの作り方を紹介する他にも、ちょっとしたアイデアで衣服をおしゃれにする工夫が求められた。ルネが手芸作品を多く発表した時期はこの時期と重なっている。

そこで、『それいゆ』『ジュニアそれいゆ』にルネが発表した記事の中から、手芸（人形を除く^{注8}）とファッション提案に関するものを表1に示した。手芸に関する記事はどちらの雑誌にも発表され、内容はバッグ、クッション、箱などが多く、アップリケを多く用いている。「丸い花をアップリケする」（1957）では、花のパーツを手袋、ブラウス、スペア・カラー、ポケットにアップリケし、大きい花の形をアレンジしてエプロンにするなど、さまざまに展開している。アップリケは、端切れを用いて自由に好みのデザインを組み立てられるため、度々登場しているが、「手芸のてんらん会にならないように。」^{注9}と、ルネはアップリケをアクセントとして効果的に使うようにアドバイスしている。

ファッション提案は『ジュニアそれいゆ』に

多くみられる。スカーフのかぶり方、ヘアー・バンドのデザイン、スカート・セーター・ストール・ボレロ・帽子などの提案がされている。

「黒いスカートをいろいろに変えて楽しく」（1959）では、黒いフェルトのスカートをさまざまな装飾で楽しむ方法を提案している。フェルトやビニールレザーのアップリケ、ボンボン、リボン、毛皮など、ルネが「ラヴリイ」と感じたものを紹介している。外国の中世の城の扉の金具の形をレザーで切り抜き、アップリケした大胆なデザインもみられる。また、「ボレロで世界をひとめぐり」（1960）のように、ヨーロッパ諸国の民族衣装をイメージしたボレロの提案もなされ、ルネの幅広い興味が伺える。

『それいゆ』『ジュニアそれいゆ』では、ルネに限らず、他の執筆者も多くの手芸を発表している。特に、アップリケの記事は多く、スカート、ブラウス、鏡掛、のれん、クッションから着物まで、幅広く扱っている。執筆者はルネの他に中原淳一、松島啓介、水野正夫らがみられる。この点からも当時の手芸の流行が伺える。

ルネは記事の中で、「可愛らしさ」「ラヴリイ」「夢みる」という言葉で自分の思い描く少女を表現している。余った端切れやリボン、毛糸など、身近な材料を使って、独自の感性で、ルネの世界を作りだしている。今回の再現作品でも、スカートの7色アップリケ、編み地の面白さを生かしたコート、薔薇のレースの飾り襟、デージーの可愛らしい造花には、ルネの夢見るような感覚が発揮されている。そして、この感覚は再現の製作者にも伝わり、手作りの素晴らしさを感じる事ができたのである。

現在、手芸は一部の人々の趣味として存在するものとなっている。今回の再現を通して、ルネの手芸作品は、今の時代にも色あせない明るさと軽やかさを持って私たちに迫ってくることを実感した。これは手作りの作品が持つ力強さや深い味わいによるのではないだろうか。同時に、ルネがあらゆる方面に興味を持ち、生み出してきた自由で完成度の高いデザインの力でもあるといえる。

4. おわりに

今回、内藤ルネの作品を再現する機会を得て、製作をする過程で、手づくりの意義について再認識することができた。また、1950年代、60年代の時代背景をルネの作品を通して実感することもできた。現代の効率を重視した生活の中で、1950年代までの生活文化は急速に失われつつある。ルネの残したラブリーで夢見るキャラクターについて、今一度、考えてみたいと思う。

注記

- 注1 高橋知子「「内藤ルネ展」のためのデザイン再現（第1報）ードレス再現製作とその意義」愛知学泉大学・短期大学紀要第43号,2008,p22-34
- 注2 長谷川えり子・松下容子「「内藤ルネ展」のためのデザイン再現（第2報）ーファッション小物再現製作とその意義」愛知学泉大学・短期大学紀要第43号,2008,p35-41

- 注3 内藤ルネ「おしゃれパターン ラヴリー・セヴン」『こんにちは！マドモアゼル』ひまわり社,p21,1959
- 注4 内藤ルネのカット,『女学生の友付録ジュニアスタイルブック』目次絵,1968
- 注5 内藤ルネ「私のオーバー」『りぼん』第6巻第2号,p3-9,1960
- 注6 内藤ルネ「トゥイーン・ファッション」『服装』第4巻第6号,p30-31,1960
- 注7 小泉和子編著『洋裁の時代』農文協,p167,2004 記載の表「国内のミシン生産台数の推移」による
- 注8 ルネは『それいゆ』『ジュニアそれいゆ』で人形を数多く発表しているが、今回の表では省略した。
- 注9 内藤ルネ「小さな恋人たちのアップリケ図案集」『それいゆ』第38巻,1956,p158

参考文献

松本育子、神谷剛生、松岡理代、山中奈津紀『内藤ルネ展図録』朝日新聞社,2008

表1 『それいゆ』『ジュニアそれいゆ』掲載の手芸およびファッション提案に関する記事

手芸に関する記事				ファッション提案に関する記事			
掲載年・月	号数	記事名	雑誌	掲載年・月	号数	記事名	雑誌
1955年12月	No.36	フェルトの手芸は簡単に出来る	○	1956年1月	No.37	着古したタイトスカートで出来るものNo.4	○
1956年4月	No.38	ネクタイとサスペンダーのアンサンブル	○	1956年8月	No.40	ペットをアップリケしたクッションと二つのおすまじ着	○
		小さな恋人たちのアップリケ図案集		1956年1月	No.7	バレエ	◎
1956年4月	No.8	小さな白いバッグをお友達のマスコットに	◎	1956年4月	No.8	スカーフ	◎
1956年5月	No.9	小物を入れる白い箱	◎	1956年5月	No.9	ボタンとリボン	◎
1956年6月	No.39	手芸は作り上げるよこびーダックスフンド、いたざらっ子、帽子とバッグ	○	1957年1月	No.13	プレーンなスウェーターにいたざらをする	◎
1956年11月	No.12	三人のアンジェル	◎	1957年2月	No.43	ベレーと手袋をコンビにする	○
1956年11月	手芸集	ペットをアップリケした小さなクッション	○	1957年7月	No.16	おしゃれなストローハット	◎
		花をアップリケする、アップリケ図案集		1957年11月	No.18	おしゃれな手袋、ジュニアのクリスマスのために長い髪をアクセントにする	◎
1956年12月	No.42	マグネットスタイルのシャボオとバケツパッ	○	1958年1月	No.19	ヘア・バンドを楽しみましょう	◎
1957年6月	No.45	ラシャ紙をテーマにした手芸 丸い花をアップリケする	○			1958年4月	
1958年2月	No.49	のれん、のれんアップリケ型紙	○	1959年1月	No.25	ルネのラヴリー・コーナーその1ー黒いスカートをいろいろに変えて楽しく	◎
1958年5月	No.21	黒ん坊の四人姉妹のクッション	◎	1959年9月	No.29	あなたの秋の暮らしを愉しくー3つの国のイメージから	◎
1958年7月	No.22	あなたが作る額ぶち	◎			秋とスウェーター	
1958年11月	No.24	ハッピー★クリスマス	◎	1960年1月	No.31	らくがきしたエプロン・スカート	◎
1959年7月	No.28	ジャイアント・バッグ	◎			ルネのスケッチ・ブックNo.1	
1960年1月	No.31	ガンバレ！ポップのクッション	◎	1960年5月	No.33	すみれの季節の妖精たち	◎
1960年3月	No.32	4つのピン・クッション	◎	1960年6月	No.34	6月の仔鹿のために	◎
		だいくさんの道具ぶくろで		1960年7月	No.35	ゴキゲン・タッチ！のキャノチェ	◎
1960年8月	臨時増刊	アイラブ・トビーののれん	◎	1960年8月	No.36	ボレロで世界をひとめぐり	◎
		くろんぼうタッチのトレーナー		1960年10月	No.38	アイラブ・オータム あなたの秋をデザインする	◎

*雑誌名:『それいゆ』は○で、『ジュニアそれいゆ』は◎で示した

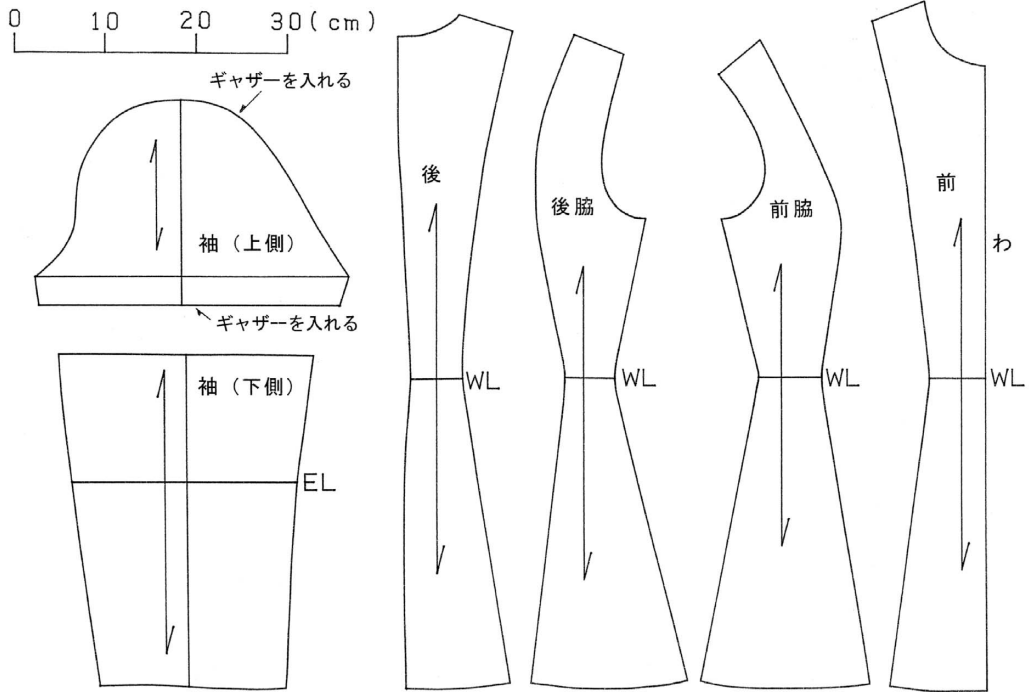


図1 ベロアのドレスパターン

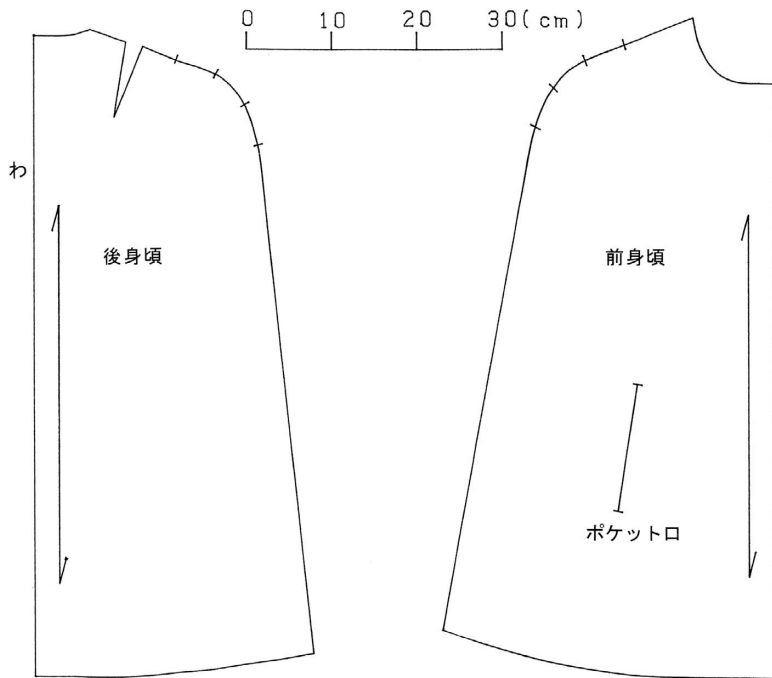


図2 松島トモ子のオーバーコート・土台パターン

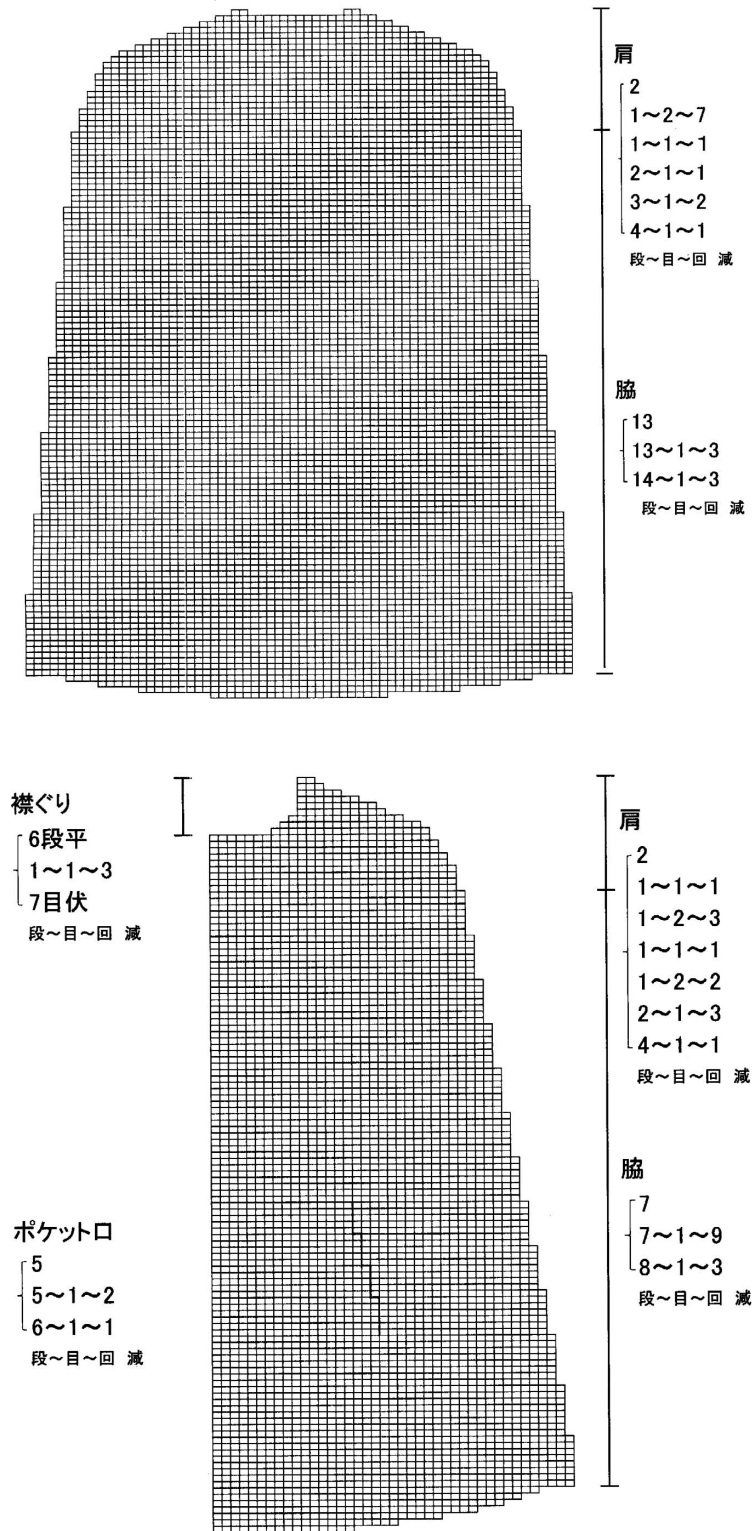


図3 松島トモ子のオーバーコートの編み方図（上：後身頃、下：前身頃）

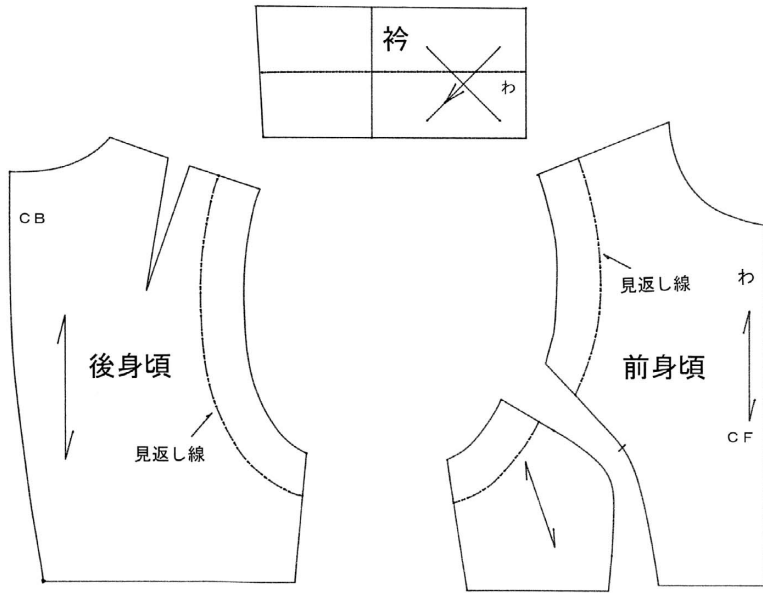
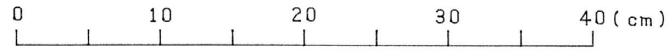


図4 デিজィのドレス：身頃と衿のパターン

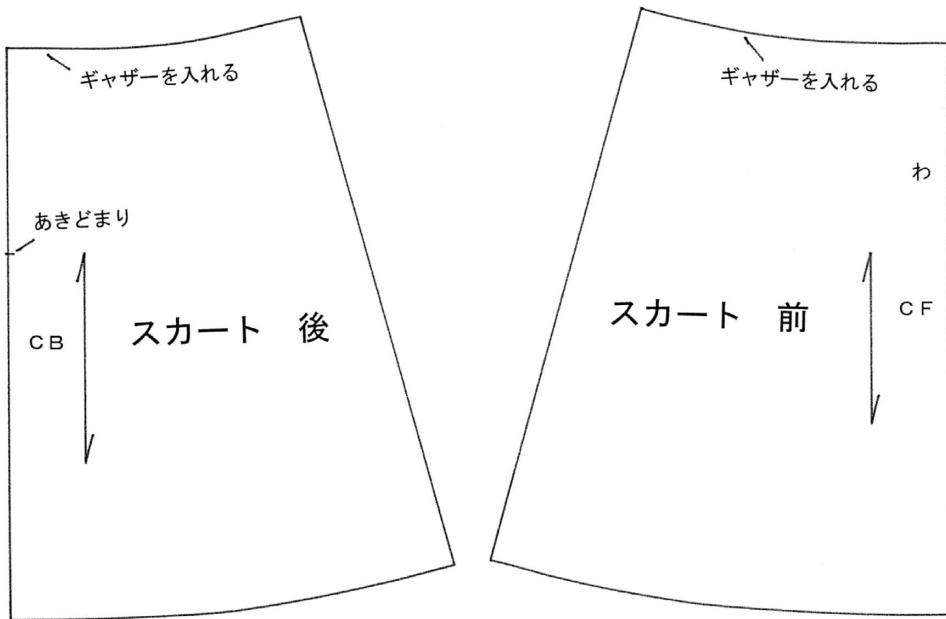
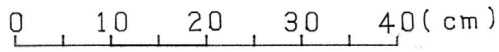


図5 デিজィのドレス：スカートのパターン